

観覧無料



萩原朝太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

ドラゴンボール

じゅうこう

最強

高荷義之原画展



『銀河戦士レンズマン』（ポプラ社刊）作／E.E. スミス 文／瀬川昌男 絵／高荷義之

2019.10.5 [土] — 2020.1.13 [月・祝]

第一期▶2019年10月5日[土]-11月26日[火]

第二期▶2019年11月28日[木]-2020年1月13日[月・祝]

開館時間▶9時-17時(入館は30分前まで)

休館日▶水曜日

年末年始(2019年12月29日[日]-2020年1月3日[金])

会場▶3階オープンギャラリー

YOSHIYUKI TAKANI

ドラマチックな 重鋼鉄

YOSHIYUKI TAKANI

高荷義之 原画展



撮影：タカオカ邦彦

高荷義之（たかに・よしゆき）

1935年、群馬県前橋市生まれ。1954年、群馬県立前橋高等学校卒業後、挿絵画家・小松崎茂の門下生となる。1955年3月に小学館の月刊誌「中学生の友」(小学館)の「ここに原始人がいた」の挿絵で商業誌デビュー。その後、数々の少年雑誌の挿絵や表紙デザインを描く。1963年より、プラモデルの箱絵を手がけるようになり、テレビアニメやPCゲームの箱絵や架空戦記小説の装画なども数多く描いている。2014年に弥生美術館にて、「高荷義之 鋼の超絶技巧画報」展が開催された。

挿絵画家・高荷義之氏は、プラモデル・ボックスアート(箱絵)界を代表する人物のひとりです。

1955年に商業誌にてデビューを果たすと、当時の少年雑誌の表紙や口絵などを次々と手がけるようになります。また、タミヤやイマイなどのプラモデル・ボックスアートを数多く描き、いまもなお数多くのファンに支持されています。1980年代には、「機動戦士ガンダム」をはじめとしたアニメキャラクターなどのプラモデルやPCゲームのボックスアートを手がけました。さらにSF小説や架空戦記小説の装画なども多く描いています。



アリダ・マルカス著 中村泰子訳
『運命の仔馬』教育書林、1955年12月
(装画：高荷義之)



高荷義之『電撃！ドイツ戦車軍団』
主婦と生活社、1972年7月



「PANZERKAMPFWAGEN IV Ausf F1/F2 (SdKfz 161.161/1) IV号戦車 F1/F2 型
高荷義之 BOX 收藏版 1/35スケール組み立てキット」
「高荷義之 BOX ～地上編 鋼鉄の鼓動～」(GSI クレオス ホビー部、2003年)

本展では、これまで高荷氏が描いてきた作品を、第一期「雑誌・小説の挿絵や装画」と第二期「プラモデル・アニメ・映画」に分けて、原画や関連資料を展示します。第一期では、初期の「週刊少年サンデー」(小学館)などの雑誌の表紙原画やSF小説『銀河戦士レンズマン』(ポプラ社刊)などの装画原画、第二期では、ミリタリーものをはじめとしたプラモデルの箱絵原画や「機動戦士ガンダム」、「超時空要塞マクロス」、「風の谷のナウシカ」、「ゴジラ」など、アニメや映画をモチーフとした作品の原画などを展示します。また、期間中は、画集や関連書籍を自由に閲覧できるコーナーも設置します。

同時期開催

萩原恭次郎生誕 120 年記念展

「何物も無し！進むのみ！」

何物も無し！
進むのみ！

2019年11月2日[土] - 2020年1月26日[日]

会場 | 前橋文学館 2階展示室

観覧料 | 一般400円 (朔太郎展示室もご覧になれます。)

高校生以下無料

障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名無料

アーツ前橋 展覧会情報

「表現の生態系 世界との関係をつくりかえる」

会期：10月12日[土] - 2020年1月13日[月・祝]

休館日：水曜日、年末年始(12月28日 - 1月4日)

観覧料：一般600円、割引400円

TEL | 027-230-1144

http://artsmaebashi.jp/



萩原 朔太郎 記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10

TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512

https://www.maebashibungakukan.jp/

交通案内

電車

JR 前橋駅から徒歩約 20 分
上毛電鉄 中央前橋駅から徒歩約 5 分

自動車

関越自動車道 前橋 I.C から
車で約 15 分

●広瀬川サンワパーキング(市営P 城東)のご利用に際しては、
駐車券に割引処理をいたします。

